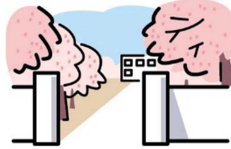


研究所だより

第414号
2020年 4月10日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“春の小川は さらさら行くよ 岸のすみれや れんげの花に
すがたやさしく 色うつしく 咲けよ咲けよと ささやきながら”
『春の小川』 日本の童謡・唱歌 (1912)



～春爛漫 2020（令和2）年度スタート～

新型コロナウイルスの感染が世界的に拡大し、先の見えない不安な日々が続く、不自由な生活を余儀なくされています。

このような状況の中、各校では満開の桜に出迎えられ、2020（令和2）年度の始業式、入学式が執り行われたことと思います。久しぶりに子どもたちが登校してきた学校には、元気で、明るい声が響き渡っていることでしょう。

新年度を迎え、子どもも教師も夢や希望を持ち、やる気に満ちあふれていることでしょう。しかし、不安と期待が入り交じり、戸惑いもあるかと思えます。教師集団がしっかりと子どもたちを支え、楽しく、喜びのある集団づくり・授業づくりを実践して行くことを願っています。

『喜んで登校 満足して下校』



<教育センターの紹介>

教育センターでは、補導センター、教育研究所、適応指導教室、家庭児童相談室の4部署とSSW並びにアウトリーチ型SCが横の繋がりを密にし、連携を保ちながら、児童・生徒を取り巻く教育環境の整備、教職員・保護者等の教育相談体制を確立し、様々な教育分野に対応していきます。教育センターは、教育全般に関わって、学校と先生と子どもと保護者のためにあります。可能な協力と支援をさせていただきます。

教育センター組織図

所長：亀谷 幸則
主管全般
所長補佐：上田 紀夫
主管全般補佐、庶務、予算等

補導センター 82-3501	教育研究所 82-3015	適応指導教室 82-3016	家庭児童相談室 82-0355	SSW 82-3016
奥谷 博史 (補導教員)	勝間 康人 (主任研究員) 橋本 雅代 (研究員)	泥谷 人美 (児童生徒相談員)	田村 雅宏 酒井 史 岡部 千代	杉本 順 武政 初美
補導活動 相談活動 環境浄化活動 広報活動 研修活動	研究所主管・庶務全般 教育支援、調査研究 教育研究集会 不登校児童生徒支援 あすなろネットワーク	不登校児童生徒支援 教育相談 あすなろ教室	児童家庭相談全般 (要保護児童対策地域協議会調整機関) 児童虐待防止対策J-データー	教育相談全般 (5月から勤務)

*アウトリーチ型スクールカウンセラー（訪問支援SC）：小松 宏暢

<着任挨拶～よろしくお祈いします～>

○奥谷 博史 先生（少年補導センター）

今年度より少年補導センターでお世話になります奥谷博史です。各学校や関係機関と連携し、学校、児童生徒を支援できるよう全力で取り組みます。よろしくお祈いします。

○橋本 雅代先生（教育研究所）

はじめまして橋本雅代です。学校現場を離れての仕事に不安なところもたくさんありますが、一生懸命頑張りたいと思っています。また、この機会に様々なことを学び、教員としての資質向上に努めていきたいと思ひます。一年間よろしくお祈いします。

☆家庭訪問で子どもの姿をつかむ ～最初の出会いを大切に～

家庭訪問は、「家庭での子どもの様子や保護者の教育要求を聞いて今後の教育に役立てるために行う。」という点をしっかりおさえておく必要があります。

最初の出会いですから、まずは保護者の話を聞く（傾聴）ことです。話を受け止めることから良好な関係（パートナー）ができてきます。話の中で「それは…」 「けれど…」と疑問を呈したり、否定的な言葉が出ると話は進みません。保護者の悩みに耳を傾け、共感的理解者になることから、共同の歩みが始まります。その点を配慮しながら家庭訪問に臨んではいかかでしょうか。

具体的におさえるポイントとして

○子どもの育っている教育環境から子どもの姿をつかむ

- ・災害、防災等の緊急時に対応するために、子どもの家の所在地を確認する。
- ・子どもの生活環境を知る。（地域の特性、通学路や危険箇所、家庭学習、遊び場、家事分担など）
- ・保護者の子どもについての考えなどを率直に聞く。（育児観、教育観）
- ・家庭における子どもの長所、短所を知る。（親の子ども観など）
- ・保護者と教師の情報交換、相互理解を図る。（子どもの病気、怪我、進路、友だち関係など、学校では話せないことなども話し合う場になる。）
- ・保護者と子、教師の信頼関係を築く。
- ・保護者からの学校や担任への期待や要望を聞き、収集する。



「出会いに全力を尽くし、魅力ある学級へ！」

☆楽しい学校・学級づくり

学校（学級）は、子どもたちにとって集団生活の基盤です。自分と心の通い合う仲間がいる。その事が学校生活を充実したものにします。一人ひとりがかけがえのない存在として尊重され、安心して生活する権利を持っていることに気づかせ、心の通い合う温かい人間関係を育てていくことが大切です。

そうした面で教師は、児童生徒の集団を教育していく宿命にあります。集団を活用できる素晴らしい仕事をしています。その集団づくりが教師の仕事の中心であり、集団づくりができるかどうかの仕事の成否も左右します。良い集団づくりをして、個々の児童生徒を良くして、更に集団が良くなって、個々の児童生徒が更に良くなる良好な環境をつくり出すことが大切です。

学校生活で、子どもたちが一番長く過ごすのが授業の時間です。この時間が満たされていること（わかり、できて、使えて、学び合える）が子どもたちの喜びとなります。教師の授業力向上とより良い集団づくりは車の両輪です。両輪がうまくかみ合えば互いに相乗効果を発揮していきます。子どもと共に良い集団づくり、授業づくりに取り組んでいきましょう。

新年度スタートは順調ですか？

うまくいってそうで、ちょっと心配なケース

企画監修 大阪市立みどり小学校教諭 村上 仁志

新年度スタートからの数日間が今後の1年の間を左右する重要な時期であることは、先生方の誰もが実感されていることだと思います。今年度、校内の先生方のスタートはいかがでしたでしょうか。

もしも、「ちょっとつまづいてしまったかな」と思われるときには、早めに軌道修正を図っていききたいものです。

しかし、本人には気づきにくい場合もあります。そうしたつまづきは、授業のどんな場面に現れるのでしょうか。原因は何で、どう軌道修正をしたらいいのか考えていきます。

●ケース1 発言は活発だが…

教師の発問に対して、子供たちが積極的に手を挙げて発言をしています。教師と子供たちによる掛け合いもあり、とても良い雰囲気授業だと思われました。

しかし、よくよく見ていると、同じ子ばかりが発言していたり、教師が話し終わる前に勝手に発言を始めたりしている場面も…。

そんなときに心配されるのは、いわゆる「お友達先生」といわれる状態になっていないかということです。お友達先生とは、子供たちから尊敬や信頼を得るよりもむしろ、自分たちと同等の存在と思われてしまうことです。

そうすると、例えば、悪い言葉遣いや間違っただ行動などを注意して改めさせようとしても言うことを聞きません。

そうした状況を放置しておく、クラスの大きな荒れにつながりかねません。必要なときには毅然として指導するなど、子供たちの教師に対する評価が固まらない年度早期のうちに、「お友達先生」を脱し、規律ある学級づくりをしていただかなければなりません。



●ケース2 なんだか板書が少ない

ちょっと見た限りでは、授業は淡々と進んでいるようです。でも気になるのは、授業時間も終盤に差し掛かっているのに、板書が黒板の半分にも満たないという状況です。

大抵教師は、1時間の授業でほぼ黒板いっぱいを使うように板書計画をする場合が多いように思います。それが後半になっても半分に満たないのは気掛かりです。

その要因は主に2つありそうです。

1つは、授業の準備が十分にできておらず、板書計画なども不十分で、授業の進行も遅れてしまっているというもの。もう1つは、授業中の指導対応に時間を取られて遅れてしまったというものです。

これを放っておくと授業の遅れが拡大し、年度末に、教科書が終わらない心配が出てきますし、進度を優先してわかりにくい授業になったら本末転倒です。

そんなときの対応法として、早めに同じ学年や同じ教科の先生に、その先生の授業準備をサポートしてもらえるように働き掛けるなどが考えられます。同学年、同教科の先生のノートや板書を見せてもらうだけでも、授業展開の具体的なイメージを持てるようになり、準備がずいぶん楽になるようです。

本人が気づいていないときには

こうした問題があっても、本人が問題を自覚してさえいれば、早期に適切な策を講ずれば、改善が期待されます。

しかし、紹介した2つのケースのような場合には、問題点に授業者本人が気づきにくいところに難しさがあります。特にケース1の場合などは、子供たちが楽しそうに積極的に授業に参加している様子から授業者は、「とても順調」と感じてさえいるかもしれません。

そのような状況で「問題があるから、こう改善したほうがいいよ」と言われても、素直に受け入れることは難しいでしょう。それどころか、助言者への不信感が高まるなど、教員間の人間関係が悪化する心配もあります。

ではどうするか、例えば、先ずその授業を「子供たちが楽しそうに発言していたね」と褒めたうえで、「ここがこうなるともっといいね」というように「良いものをより良くするための助言」という形で伝える。もしくは、その良否を評価するのではなく、その授業の先にある懸念事項を「自分の過去の失敗談」として披露することによって意識させ、改善を促す。そんな工夫が必要になりそうです。なお、遠回しな伝え方は、意図がきちんと伝わらない心配があります。助言後の様子にも注意して見守りたいものです。

